

名誉会長就任にあたり

小沢辰男名誉会長の足跡

平成14年度第45回通常総会において会長職を退任された小沢辰男氏は、長年にわたり当工業会の発展に尽力されたことにより当工業会の名誉会長に推戴されました。ここに、あらためて小沢名誉会長の人となりを知るために、新潟日報事業社発行「小沢辰男とその時代—愛郷無限」第1章生い立ちの記の一部及び巻末の年表を抜粋し、これに当工業会の沿革を入れて掲載させていただきました。

皆様には是非とも本書をご一読されることをおすすめいたします。

また、名誉会長の座右の銘とお好きな言葉を合せて掲載させていただきました。

＝編集子＝



母親「みつ」のこと

—— ご両親の話聞かせていただけませんか。 ——

お袋の話をしましょう。お袋はとても気持ちの優しい、信心深い人でしてね。仏前へのお経は毎日でした。市内の神社仏閣にも宗旨を問わずにお参りしていました。私もよく連れて行かれましたが、特に（北蒲原郡）水原町のはずれの笹神村出湯温泉の手前にある通称「羽黒の優婆尊」のお堂に私たちが寄贈した大提灯が今も残っていますよ。ほかにも「赤谷のお不動さま」「出羽三山」「弥彦神社」「青山稲荷さま（新潟市）」など、数えたらきりがありません。

お袋は時々、父や兄達に会うため上京するのですが、そのたびに私を連れていってくれました。お袋のすぐ上の兄が株屋さんでね、一時羽振りが良くて青山に立派な家を持っていた。そこに泊まったある夜でした。私とお袋が寝ている所に泥棒が入ったことがあるんですよ。私が小学校一年生ぐらいでしたかな。

ところがお袋は驚きもしない。どころか、泥棒に説教を始めたんです。

「仏様を信じている私です。あなたも、こんな悪いことをすると一生不幸になりますよ。早く帰って心を改めて、世の中のために働きなさい」という意味のことを言って、諄々と諭していまし

た。するとね、泥棒は何もせずに帰っていったんですよ。私はびっくりするやら、「母の強い信心から来るものなんだなあ」と感心するやらでした。

感謝の気持ち忘れない人でね、食事の時には必ず、「こうして毎日ご飯を食べられるのは、みんな人様のおかげなんだよ。この商売もお客様が買ってくださるからで、ご恩を忘れてはならないよ。だから、大きくなったらお前たちも人様のためになるようにしなさい」。こんな話を、ほとんど毎日のように聞かされたのを覚えています。当時は幼かったので話の内容はあまり理解できなかったのですが、次第にそうした考え方が自然と身について、成長するにつれ心の中でも大きく広がっていったのです。

—— 母上の影響を強く受けられたようですね。 ——

そうですね。お袋の教えが私の根本を造ってくれたんでしょうね。親父の方ですが、一年の大半を漁場で暮らしていましたので、家には盆暮れに帰ってくるんです。「粹」で「おしゃれ」で「道楽者」でした。文字通り、道を楽しむ親父でしたね。蔵の中には弓が幾張りもあり、謡の道具、写真機、乾板写真、パレットも数台ありましたね。日本各地の絵はがきが柳行李の大きな旅行用のバスケットに何個もあったし、掛け軸や骨董、貴重な本など、それはすごい量でした。

私が親父から受けた影響は、身だしなみとお

名誉会長の座右の銘

不苦去日多

只求失日少

(去ル日ノ多キヲ苦シマズ、タダ、失ウ日ノ少ナキヲ求ム)

※過去が無駄に過ぎてしまったと悔やまないで、むしろ一日一日が充実した日々であるよう努力すべきだ

[名誉会長のお好きな言葉]

一年の計は穀にあり

十年の計は植にあり

百年の計は育にあり

[名誉会長が養父から受けられたお言葉]

明治の人を大切に下さい

[名誉会長のコメント]

明治の創成期に生れ育った人は立派だ

注=名誉会長は大正5年(辰)のお生れ

しゃれかな。

でもね、私が新潟商業から旧制新潟高校への「無謀とも言える受験」を決意したときには、父が賛成してお袋を説得してくれました。

新潟高校から東大受験の時に親父は脳溢血で倒れてしまいました。そのときのショックを鮮明に記憶しています。

—先生は母上はもちろん、小沢家の方々、つまり奥様のご両親に対する思いを非常に深く、強くお持ちですね。先生の話の端々に感じられます。—

実は私はね、毎日、新潟にいるときはもちろんですが、東京にいるときも私の母親と小沢家の両親には毎朝、手を合わせているんですよ。

東京の自宅には、お仏壇がないものですから、私の母と今の小沢家の両親の写真を飾ります。自宅にいる限り毎朝ですよ。そして自分で入れたお茶を3人にお出ししてね。感謝の気持ちを込めて毎日、手を合わせているんです。

—そうでしたか。—

まあ、親父の写真がないのは、ちょっと申し訳ないのだがね。親父は、網元だったのですが、生活の大半を太平洋側で過ごしていたんです。そんなこともあって、母親とのきずなの方が強かったのかなと思っているんですがね。

—小沢家には、いつ?—

小沢家には、昭和18年11月23日に結婚したのですから、それと同時に婿養子に入ったんです。満で26歳だったかな。女房は20歳でした。まあ、そういう意味では私は、若いときから小沢の両親には世話になったわけだ。変な言い方だけど、女房には苦勞掛けたんです。心配をさせたり、助けられたりしながら、半世紀以上ですからね。そんな思いが強いのかな。

「小沢の両親を通じて苦勞掛けた女房を守ってもらいたい」

という気持ちが湧いてくるんだな。だから毎朝、手を合わせ続けているんだと思いますよ。新潟の自宅にいるときは、仏壇がありますから、毎朝手を合わせていますよ。

—ご自分でお茶を入れる、というのは気持ちがこもっているし、毎日欠かさずというのはなかなかできないことですね。—

あたりまえの事ですが、まあ、そういう気持ちに、みんながなればねえ。決して子供たちに強制するわけではありませんよ。でも、そういう心を失わないということが、今日の教育の荒廃と言われているご時世においては大事なことではないか、と私は思っています。お説教がましい事を言うわけではないが、親子の愛情と先祖への感謝の気持ちというのは教育の基本だと思っていますよ。

年 表		
1916年	大正 5年12月	7日。真保辰男氏、新潟市で生まれる。
	昭和	
29年	4年3月	礎小学校卒業。
34年	9年3月	新潟県立新潟商業高校卒業。
37年	12年3月	旧制新潟高等学校（文科乙）卒業。
41年	16年3月	東大法学部卒業。内務省入省。海軍主計中尉としてボルネオへ駐屯。
43年	18年11月	小沢彩子さんと結婚し、養子縁組み、小沢姓となる。
45年	20年8月	終戦。
	12月	小沢辰男氏、厚生省医務課事務官勤務に。
51年	26年9月	小沢辰男氏、アメリカへ研修旅行4ヵ月（GHQ推薦派遣）。
53年	28年4月	小沢辰男氏、厚生省公衆衛生局庶務課長に就任。
55年	30年8月	小沢辰男氏、厚生省健康保険課長に就任（昭和33年12月まで）。
58年	33年12月	小沢辰男氏、厚生省退職。
59年	34年3月	小沢辰男氏、日本赤十字社入社。在日朝鮮人帰還事業を担当。
60年	35年11月	第29回総選挙。小沢辰男氏が初当選、43歳。新潟1区（定数3）。
62年	37年12月	当工業会結成。
64年	39年10月	東京オリンピック開会。
68年	43年5月	当工業会、厚生省の設立許可を受け公益法人となる。
73年	48年10月	OAPEC、石油の生産削減を発表、オイル・ショック。
74年	49年3月	小沢辰男氏を当工業会会長に選任。
	11月	11日。第2次田中内閣第2次改造。小沢辰男氏初入閣、建設大臣に。
	12月	小沢辰男氏、2度目の入閣で国務大臣環境庁長官に（昭和51年9月まで）。
77年	52年11月	小沢辰男氏、3度目入閣、厚生大臣に就任（昭和53年12月まで）。
83年	58年1月	ロッキード裁判、田中元首相に懲役5年の求刑。
89年	64年1月	7日。昭和天皇崩御。 8日。元号「平成」に。
	平成	
92年	4年11月	当工業会創立30周年、記念式典を挙げる。
93年	5年6月	23日。小沢辰男氏ら自民党離党の羽田派が「新生党」結成。小沢氏は新生党顧問に。
94年	6年4月	1日。新潟国際情報大学開学。小沢辰男氏が理事長に。
	12月	小沢辰男氏、新進党両院議員総会議長に就任。
98年	10年1月	小沢辰男氏、改革クラブ代表に就任。
2000年	12年4月	小沢辰男氏、「次期衆院選に出馬しない」と正式に表明。 勲一等旭日大綬章を受ける。
01年	13年1月	中央省庁再編。22の省庁制を1府12省庁に。これにより、当工業会は環境省所管となる。
02年	14年5月	小沢辰男氏、当工業会会長を退任し名誉会長に推戴される。

<小沢辰男氏の主な役職>

(社)日本環境衛生施設工業会名誉会長	新潟商工会議所相談役
(社)日本調理師会名誉会長	新潟県中小企業中央会名誉会長
(社)全国栄養士養成施設協会会長	新潟県済生会会長
(社)日本バーテナー協会名誉会長	新潟水泳協会会長
(財)日本ホームルームダンス連盟理事	新潟県ソフトテニス連盟名誉会長
改革クラブ代表	新潟県立商業高校同窓会長
(学)新潟平成学院理事長	東京学館新潟高校後援会長